



最優秀賞受賞にあたって

岐阜県美濃加茂市立古井小学校 みやうち 宮内 ちづこ 智鶴子

この度は由緒ある第33回東書教育賞において、最優秀賞という名誉な賞をいただき、誠にありがとうございます。また、このような栄えある表彰の場を設けていただきました東京書籍株式会社関係の皆様方、そして多くの応募論文の中から選出をしてくださいました審査委員の皆様方に、受賞者を代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

本校の現在の児童数は682名です。その中には2割の外国人児童や、その外国人児童を指導する国際教室が3学級、そのほか特別支援学級が5学級と通級指導教室が4学級あるなど、支援を要する児童やいろいろな環境の中で登校してくる児童がいます。3年前、校長として赴任したときに、そうした一人一人の子どもたちに自己肯定感をもたせて、仲間とよりよく生活できるようにしたいという願いをもちました。

自己肯定感には、「自分もなかなか良い子だ」と感じられることと、「基礎学力をつけること」を中心に取り組んできました。なぜなら「あなたはとてもいい子だよ」と言っても、1日の大半を占める学習がわからないと、自己肯定感は上がらないからです。

よさを認める一つのきっかけとして、全員に「きりり賞」を渡してきたことで、最初は「きりり賞」をもらうために頑張っていた子どもたちも、次第に自分も人の役に立つ、そしてそのことにうれしさを感じたり、人の喜びを自分の喜びに感じたりしていく姿がありました。また、

学習では職員が授業を公開して、どの子もわかる授業づくりに向けて、創意工夫をしながら取り組んできました。そうした中で、教える楽しさを実感できた職員も数多くいます。

私はこの3月をもって定年退職を迎えますが、最後の年にこのような立派な賞を受けることができましたことは、誠に光栄なことだと思います。40年足らず、ここまで勤めてまいることができたのも、協力をしてくれた家族の支えがあったからです。しかし、何よりも学校の子どもの成長を見たり、感じたりできることが、教師としての大きな喜びでした。子どもたちがよくなりたいという思いで頑張った姿を見たり、変容を実感したりできたことは大きな喜びでした。また、そうした成長に関われたことが教師としての生きがいとなってしまいました。

今回の実践においても、そうした変容をたくさん見ることができ、それらの喜びが論文につながりました。これは私一人の力ではなく、美濃加茂市教育委員会、そしてPTA、保護者の皆様、地域の皆様方のご支援の下で職員が同じ方向を向き、チーム古井として努力を続けてこられたからこそです。今回認めていただけたことで、まだまだ課題はあるものの、本校職員の今後の励みになっていきます。教育にはゴールはありません。地道な実践ですが、次につながっていくことができましたら幸いです。本日は、誠にありがとうございました。